

国際交流 NGO ピースボート  
一般社団法人 ピースボート災害ボランティアセンター

# 福島子どもプロジェクト 2015 年春休み ～海でつながるアジア 自然と歴史を学ぶ旅～

## 活動の記録



## 南相馬から世界へ

### ～自分たちの手で未来を築く～

国際交流 NGO ピースポートと一般社団法人ピースポート災害ボランティアセンター(PBV)は、国際交流の体験を通して子どもたちに“夢と健康”を届けたいと、2011年の震災後に「福島子どもプロジェクト」を立ち上げ、実施してきました。これまでに「夏休みアジアクルーズ」(2011年7～8月)、「夏休み 福島×ベネズエラ音楽交流プログラム」(2012年7～8月)、「2013春 in オーストラリア」(2013年3月)、「2014・春 異文化を体験するアジア国際交流の旅」(2014年3月)を行い、海外プログラムとしては今回が5回目の実施となりました。

2015年春のプロジェクトは、「海でつながるアジア 自然と歴史を学ぶ旅」をテーマに、南相馬の中学生12名が参加しました。震災以降、様々な制約の中で過ごしてきた子どもたちは、のびのびと過ごせる環境の中で、国際交流や自然体験を通じて、徐々に、自分の中に秘めていた新たな可能性に気づいていきました。言葉が通じなくても人は友だちになれること、人の数だけ多様な生き方や考え方があること、自分の未来は自分で築いていけること―。様々な学びを通して、将来の夢を描きはじめた子どもたちが、さらに大きく育っていくことを期待しています。

プロジェクトを支えていただいた皆さまへの感謝を込めて、活動報告とさせていただきます。

#### ■ 2015年春プログラム・基本コンセプト

- 大自然を感じる : 自然豊かな濟州島の森を散策／沖縄の海を体感し海洋生物に出会う
- 戦争と平和を考える : 広島平和資料館を見学／戦争体験者の話を聞く
- 世界に友だちをつくる : 世界15カ国以上から乗船している参加者と交流し仲良くなる
- 思いきり外で遊ぶ : 360度の大海原を航海する／洋上スポーツ大会

#### 「福島子どもプロジェクト」呼びかけ人

加藤登紀子 (歌手) / 鎌田實 (諏訪中央病院名誉院長)  
 香山リカ (精神科医) / 田中優 (環境活動家)  
 田部井淳子 (登山家)

## 参加者紹介

### ■参加生徒

福島県南相馬市の中学生 12 名

青田七海（原町第二中学校）  
 安藤禎基（原町第一中学校）  
 井戸川明詩（小高中学校）  
 稲垣未夢（小高中学校）  
 海老沢七虹（小高中学校）  
 小林梨乃（原町第二中学校）  
 佐藤紀佳（石神中学校）  
 庄司七海（石神中学校）  
 白土翔瑛（原町第一中学校）  
 館野咲（鹿島中学校）  
 戸浪駿介（原町第一中学校）  
 瀨名舞（鹿島中学校）



▲各国の大使らと記念撮影（3月31日、洋上にて）

### ■引率（南相馬より）

内田雅人（南相馬こどものつばさ）

### ■同行スタッフ（ピースボート）

古賀早織（プロジェクトコーディネーター）  
 片岡和志（写真、記録）

## パートナー団体

今回のプロジェクトは、2011年「夏休みアジアクルーズ」、2013年「2013春 in オーストラリア」、2014年「異文化を体験するアジア国際交流の旅」に引き続き、「南相馬こどものつばさ」とのパートナーシップにより実施しました。同会が、ピースボートとの綿密な協議のもと、子どもたちの選考と送り出し、学校との調整、引率者の派遣を行いました。

### 特定非営利活動法人 南相馬こどものつばさ

放射能の影響により戸外での活動制限が続いた子ども達を心身ともに解放したいという願いから、2011年6月に南相馬市に発足。市内小中学校 PTA 連絡協議会のメンバーと県外受け入れ団体が協力し、学校の長期休暇に子どもたちを保養プログラムに送り出す活動を続けている。

<http://www.kodomonotsubasa.com/>

## プログラム行程

### ■事前準備

- 参加者・保護者説明会：2015年2月26日（木） かしま交流センター1階 中会議室
- 事前研修：2015年3月14日（土） 万葉ふれあいセンター 生活改善室

### ■プログラム実施：2015年3月26日（木）～4月3日（金） / 計9日間

日付	活動場所	活動内容
3/26(木)	移動	南相馬出発、バスにて成田空港へ 成田空港より空路沖縄（那覇）へ
3/27(金)	沖縄	美ら海水族館を見学 ピースボート（オーシャンドリーム号）に合流
3/28(土)	洋上	落語家・古今亭菊千代さんとの集い 広島原爆被爆者・橋爪文さんとの集い 英語で実践リーダーシップトレーニング 日系ブラジル人ユースと交流、ポルトガル語講座
3/29(日)	博多	大刀洗平和記念館見学、福岡大空襲の慰霊碑等訪問 憲法学者、弁護士との集い
3/30(月)	洋上	フォトジャーナリスト安田菜津紀さんとの集い
	濟州島	「ゴッザワル」の森トレッキング、餅作り体験 ムルン母の里カフェ訪問
3/31(火)	洋上	操舵室ツアー、スポーツ大会、韓国語講座 大使・大使館関係者と交流
4/1(水)	広島	平和記念資料館・原爆ドーム見学、被爆遺構巡り 宮島観光
4/2(木)	洋上	職業紹介企画、船旅発表会 神戸にて下船、宿泊
4/3(金)	移動 南相馬	神戸空港より空路仙台へ、バスにて南相馬へ帰着 南相馬市役所表敬訪問、桜井勝延市長へ活動報告 ラジオ番組に生出演

※ ピースボートショートクルーズ 2015年春（2015年3月21日～4月2日／神戸発着13日間）の  
旅程については、以下を参照：[http://www.pbcrui.se.jp/short\\_cruise/](http://www.pbcrui.se.jp/short_cruise/)

## 旅の記録 ～出会い、学び、発信へ～

### 3月26日(木) 【 出 発 】

早朝、南相馬・鹿島の「さくらホール」に集合。南相馬こどものつばさ代表の西道典さんとの出発式。家族に見送られ、バスで成田空港へ出発。大きな荷物を抱え、空路那覇へ。到着後、宿に荷物を置き、地元の食堂で夕食。沖縄料理を食べ、街を散策しながら宿へ戻り、就寝。



### 3月27日(金) 【 沖 縄 / ピースボート乗船】



朝食後、美ら海水族館へ。色とりどりの魚や珊瑚、全長8mを超えるジンベイザメなど、温暖な気候ならではの海洋生物を見学。昼食後は、近くの海で水遊び。沖縄の大自然を堪能した。夕方、ピースボート（オーシャンドリーム号）へ乗船。チェックイン。避難訓練後、船内を見学。夕食後、ホームルームにて「福島キッズパートナー」のお兄さん、お姉さん5名と顔合わせし自己紹介ゲーム。一日を振り返り、就寝。

### 3月28日(土) 【 洋 上 】

午前中、落語家・古今亭菊千代さんに人生や仕事の話を聞いた。特別に小咄を披露してもらい落語の面白さを体験。午後、広島で14歳のときに原爆の被害に遭った被爆者・橋爪文さんに、戦争当時の話を聞いた。その後、終始英語を使ってのリーダシフトトレーニングワークショップに参加。テーブルマナーを意識しながら夕食。夜のホームルームでは日系ブラジル人ユースと交流、ポルトガル語を教えてもらった。



### 3月29日(日) 【 博 多 】



午前中は、戦時中に西日本最大規模の陸軍拠点があった大刀洗（たちあらい）平和記念館を見学。特攻隊の歴史や福岡大空襲について学んだ。昼食後、空襲時に児童31名が亡くなった頃田の森平和花園や、福岡市内の公園にある戦災記念碑を訪問。午後は、博多小学校にて、憲法学者・石村善治さん、弁護士・毛利倫さんから戦争の歴史や憲法についての話を聞き、ディスカッションに参加。一日を振り返って感じたことや考えを述べた。

### 3月30日(月) 【 濟州島 】

午前中、船内にてフォトジャーナリスト・安田菜津紀さんに人生や仕事の話聞いた。10代半ばにカンボジアを訪れ貧困に苦しむ子どもを取材したことをきっかけに写真家の道を選択したという安田さんの話から、仕事の意味を考えた。午後、濟州島に寄港。ムルン村を訪問し、ムルン母の里カフェ営業組合で地域活性化や地産地消の話聞いた。その後、自然豊かなゴッザワルの森の散策や果物餅作りなどを体験。夕食は韓国料理を堪能し、家族へお土産を買って帰船。



### 3月31日(火) 【 洋上 】



午前中、彫刻家・大井秀規さんに人生や芸術の魅力について話を聞いた。その後、操舵室を見学。昼食前に、各国（エリトリア、パレスチナ、ルーマニア、マダガスカル）の大使より、自国の文化や習慣、課題などについて話を聞いた。昼食時は大使らと英語で交流。午後は、福島キッズパートナー(※)とスポーツ大会を行い思い切り体を動かした。夜はフォーマルディナー&パーティに出席。ホームルームでは韓国人スタッフによるハングル講座を行った。

### 4月1日(水) 【 広島 】

午前中、被爆者・岡本忠さん案内のもと、平和記念資料館や原爆ドームを見学。その後、原時彦さん、竹原陽子さん案内のもと、原爆作家・原民喜さんが原爆投下直後に避難したときの足取りを追った。昼食に広島風お好み焼きを食べ、宮島へ。干潮で姿を現した大鳥居の前で写真撮影。厳島神社の見学やお買い物など、思い思いに広島を満喫し帰船。出航式では、プロジェクトを代表して舘野咲さん、濱名舞さんがスピーチ。



### 4月2日(木) 【 神戸 】



午前中、日本・沖縄・韓国の歴史認識を通して「海でつながるアジア」について考えた。その後、福島キッズパートナー主催の企画に参加し様々な職種の人から仕事の話聞いた。昼食後、「福島キッズ船旅発表会」開催。70名以上が見守る中、12名全員、それぞれ旅で学んだことや感じたことを発表し、お世話になった方々へ感謝の気持ちを伝えた。夕方、ピースボートを下船。神戸の中華街で最後の夕食をとって宿泊施設へ。

## 4月3日（金） 【 帰 着 】



午前中、神戸空港より空路仙台へ。バスで南相馬へ向かい、市役所を表敬訪問。南相馬市・桜井勝延市長へ活動報告を行った。みな緊張することなく、のびのびとそれぞれの旅の成果を報告した。その後、隣接している臨時災害放送局「南相馬ひばりエフエム」の収録現場へ。ラジオに生出演し旅の様子を報告。無事にすべての行程を終え、ようやく帰りを待ちわびていた家族とともに自宅へ。

※福島キッズパートナーとは、ピースボート乗船者に呼びかけ有志で集まったボランティアメンバー。大学生や社会人など20代の男女5名が、企画づくりや子どもたちの生活サポートなどを通じて、プロジェクトを盛り上げてくれました。

## 主な成果 ～無限の可能性を感じて～

### コミュニケーションと海外への興味

英語、韓国語、中国語、ポルトガル語、イタリア語など、様々な言語にふれることで、世界を身近に感じ、海外への興味をもつことができました。また、言葉が通じなくても、国籍や言語を超えて思いを共有し「友だち」になることができるということを知りました。はじめは、恥ずかしくて自己紹介さえ上手に出来なかった子どもたちも、徐々に、相手の目をまっすぐ見て、自分の考えを丁寧に伝えることができるようになりました。

### 自分の頭で考え、行動する

家庭や学校とは異なる集団生活の中で、自分の役割を見つけ、積極的に行動することを求められる機会が多くありました。はじめは、指示を待ち動いていた子どもたちが、徐々に自分たちで話し合い、解決策を見つけるようになりました。また、ミーティングやディスカッションを経験する中で、人の数だけ多様な意見があることを実感しました。周りの意見に耳を傾け、自分の考えを整理し、発信することができるようになりました。



▲出航式でスピーチする舘野咲さん  
(4月1日、広島にて)

### 将来について自由に思い描く

訪問地や船内で多様な職種の人と出会い、いろいろな生き方があるということ学びました。彫刻家・大井さんからの「人の評価を気にすることなく、自分の可能性を広げてください」という言葉に自信をもらった子どももいました。一方で、「仕事とは何か」を考え、社会の一員として自分が活躍する様子を具体的に思い描く子どももいました。広い世界の中で、無限の可能性を感じながら、自分たちの手で未来を築いていくことを期待します。

## 子どもたちの声

私は、将来海外で生活したいです。毎日外国の人に囲まれて生活できて、とても良い経験になりました。また、世代を超えて友だちが作れたことも嬉しかったです。いつか、絶対地球一周したいです！（青田七海）

今回の旅は、初飛行機、初海外と、初めての体験ばかりでした。濟州島では、表示が韓国語に変わるだけで、新しい世界に入ったみたいですごくワクワクしました。韓国料理も、とてもおいしかったです！（稲垣未夢）

広島や博多で戦争の歴史を学びました。僕は戦争のために命を捧げるのは嫌だと思いました。戦争は二度と繰り返してはいけないし、このことを未来の子どもたちに伝えていかなければいけないと思いました。（戸浪駿介）

「話したい」という気持ちがあれば言語が違っててもコミュニケーションできることを学びました。優しさや思いやり、協力についても学びました。私も人に優しく、誰かの役に立てる人になりたいです。（濱名舞）

私の将来の夢は、看護師です。フォトグラファー安田菜津紀さんから、カンボジアの人びと話を聞いて、「国境なき医師団」に入って国内外で苦しんでいる人を助けたいと思いました。（井戸川明詩）

「震災で大変だったね、頑張ってたね」と、船内で、たくさんの人に優しく声をかけてもらったことが嬉しかったです。もっと英語を話せるようになって、いつか世界一周の旅をしたいと思いました。（庄司七海）

戦争や、沖縄・日本の過去について学んだことが印象に残っています。話し合いや武力以外の方法で解決すれば、戦争は起こらないと思います。みな協力しあい争いのない世界を作っていきたいと思いました。（白土翔瑛）

私は、将来英語を話す職業につきたいです。船の中で、英語だけでなくいろんな言語で外国人の人と話ことができ、もっと世界のことを知りたいと思いました。大好きな英語の勉強を頑張りたいと思いました。（小林梨乃）

フォトグラファー安田菜津紀さんの「仕事は役割」だという話が印象に残っています。私も誇りを持って役割を果たせる仕事に就くために、もっといろんな所を見て、じっくり考えたいと思います。（佐藤紀佳）

前から興味があった韓国のことをもっと好きになりました。船の上で、韓国人スタッフにハングルを教えてもらったことが嬉しかったです。もっとハングルの勉強して、韓国に関係する仕事に就きたいです。（舘野咲）

私はこの旅で夢ができました。それは、貧しい国の現状を、日本で多くの人に知らせることです。自分に出来ることは小さいですが、みんなが楽しく暮らせるように一つ一つ実践していきたいです。（海老沢七虹）

僕は、将来、法律に携わる仕事、国家公務員になりたいと思っています。博多でお会いした、毛利弁護士から憲法の話聞いてとても勉強になりました。これからはもしっかり勉強して、将来に生かしたいです。（安藤禎基）

## メディアでの紹介

- 4月3日に南相馬市・桜井勝延市長への活動報告の様子が、以下の通り報道されました。  
**福島民報「体験成長の糧に 市長に活動報告」(2015年4月7日朝刊)**  
**福島民友「多文化交流成果伝える」(2015年4月7日朝刊)**



桜井市長は、「学校の授業では学べないことがたくさんあったと思う。今回の体験を成長につなげてほしい」と、子どもたちへエールを送ってくれました。

- 臨時災害放送局 南福島ひばり FM (<http://hibarifm.wix.com/870mhz>) では、今回の旅の様子を4日間で計20回(3月26日、31日、4月2日、3日 12:00、再放送 15:00、21:00、00:40、翌07:00) 放送していただきました。

4月3日は子どもたち全員がラジオに生出演！  
 旅を通して、感じたことや、印象に残っていることなどを一人ひとり報告しました。



- 参加者の井戸川明詩さんが朝日新聞の人物紹介欄にて紹介されました。  
**朝日新聞「(ひとひと) 井戸川明詩さん(13) 国際交流の短期航海参加 南相馬市立小高中2年/人生の大きな目標つかんだ旅」(2015年4月17日朝刊)**

## パートナーからのメッセージ

今回で四回目の共同実施となるパートナー団体「南相馬こどものつばさ」より、理事長・西道典さんと、プログラムを引率して頂いた内田雅人さんからメッセージをいただきました。

東日本大震災より早4年、大震災直後原発事故により当たり前の生活が送れなくなった、南相馬の子どもたちの為に何か出来る事はと、いち早く行動して頂きましたピースボートの皆さま、衷心より感謝申し上げます。

さて、南相馬の子どもたちに向けたプログラムを提供して頂き、四回目の旅になります。南相馬市の中学校六校を通し募集をし、自ら希望して集まってくれた参加者12名、今回も又事前研修から始まり徐々に成長して行く子供たちを見る事が出来ました。多くの方々と出会い、いろいろな考え方を聞き、生き方を学び、本当に素晴らしい生の体験をすることが出来たから、彼らは成長したのだと思います。本当に素晴らしい機会を作って頂いた方々に感謝です。

私達の生活は、海が在り、山が在り、水田が広がり、本当に自然に恵まれた中での暮らしでしたが、今、風景は同じでも山の中に入りキノコを採ったり、川辺で水遊びをしたり、海で泳いだりという姿は見られません。今の子どもたちにはこれが当たり前に見えて生きているのではと危惧しております。都会の子どもたち以上に自然が遠のいているようです。

しかしながら南相馬市は、生活出来ないところではありません。私たち大人も子どももこの地で根を張って生きています。明るい未来を目指し一步一步。

ただ、風評被害もあります。これらに負けない福島の将来を背負ってくれる子どもたちに育ててもらおうよう、「南相馬こどものつばさ」事業は前を見つめ進めて参ります。

今後ともご尽力よろしくお願いいたします。

特定非営利活動法人 南相馬こどものつばさ  
理事長 西道典

私自身三度目の乗船機会となった今回の福島子どもプロジェクト2015年春休み「海でつながるアジア 自然と歴史を学ぶ旅」。過去二回乗船した世界一周フルクルーズの中の一部ではなく、元々がショートクルーズの旅程の中の9日間を子ども達と一緒に体験しました。引率者として三度目という馴れと少しの自信のようなものがありましたが、今回の船旅の位置づけから多少の不安感を持っていました。しかしそれを微塵も感じさせなかった子ども達。大人の不安をよそに士気旺盛・決起多感に振る舞ってくれました。若いエネルギーとそのパワーに感謝です。

そこに携わってくれたスタッフや一般の旅行者の方々の後押しを最大限に受け、一回りも二回りも成長する姿が印象づけられました。あらためてこのプロジェクトの重要性を再認識するとともに、関わり続けていく事への責任感を実感しました。

私共南相馬こどものつばさでは、必ずや訪れるであろう子ども達の輝かしい未来に向けて彼ら彼女らをそこに導き出すべく、これからも最大限の協力と努力をして参ります。

最後になりますが、この船旅に於いて携わっていただいた全ての皆さまに感謝と尊敬の意を込めまして”ありがとう”の言葉を贈ります。

内田 雅人

## ご支援に感謝します

今回のプログラムは、多くの方々のあたたかいご協力ご支援のもと実現することができました。心より感謝申し上げます。

### ご協力いただいた皆さま

伊井雅さん(福島キッズパートナー)/石村善治さん(憲法学者)/大井秀規さん(彫刻家) /岡本忠さん(ヒロシマピースボランティア) /久野成章さん/古今亭菊千代さん(落語家)/畔柳美貴さん(福島キッズパートナー) / 彩-xi-さん(ヒップホップアーティスト) /ジャパングレイス/竹原陽子さん/橋爪文さん(詩人、原爆被爆者)/原時彦さん/藤原祐太さん(福島キッズパートナー)/松本和久さん(福島キッズパートナー)/毛利倫さん(弁護士)/安田菜津紀さん(フォトジャーナリスト)/渡邊正勝さん(福島キッズパートナー)

### 団体寄付・助成にご協力いただいた皆さま

LUSH Fresh Handmade Cosmetics

※個人情報の観点から寄付者お一人お一人のご紹介は控えさせていただきます。心より感謝申し上げます。

## おわりに

おかげさまで、2015年春期の福島子どもプロジェクトを無事終えることができました。ご支援、ご協力いただいた皆さまに、あらためて感謝申し上げます。

震災から4年が経ち、このプロジェクトが、保養という役割から、徐々に、教育という役割へと重点を移していることを感じます。

様々な出会いや経験を通して、子どもたちは、生き方を学び、新しい考えや視点を身につけ、無限に広がる可能性に自ら気づいていきます。とりわけ国際交流の経験は、互いの違いを認め尊重しあう感性を身につけるだけでなく、これまでとは違った視点で、日本のこと、福島のこと、これからの将来のことを考えるようになります。はじめは内気で何をするにも周囲の目を気にしていた子どもたちが、徐々に目を輝かせ、自ら新しいことへとチャレンジしていく。目の前でどんどん成長していく子どもたちの姿に、周囲の大人は驚くと同時に、子どもが育つために必要な環境とは何か、改めて問い直されます。

残念ながら、福島では、今なお多くの制約の中で子どもたちは生活しています。感受性豊かな子どもたちが、自分の頭で考え、自分の足で歩いていくための手助けを、これからも多くの方々と共に手を携えながら継続できればと願っております。

私たちのプロジェクトに、引き続きご支援を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

国際交流NGOピースポート  
一般社団法人ピースポート災害ボランティアセンター

## これからも「福島子どもプロジェクト」にご協力をお願いします！

ピースボートおよびピースボート災害ボランティアセンターでは、今後も福島の子どもたちへの支援を続けていきます。今後のプロジェクトの継続と発展のために、引き続き、ご支援ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

### <福島子どもプロジェクトへの募金>

**郵便振替** 00120-9-488841 (下 6 桁は右ツメ)  
加入者名 社)ピースボート災害ボランティアセンター  
※ 通信欄に「フクシマ」とご記入ください

**銀行振込** ゆうちょ銀行 ゼロイチキューウ店 (019 店) 当座 0488841  
口座名 社)ピースボート災害ボランティアセンター  
※ 振込依頼人の前に「フクシマ」とお書きください  
⇒ 例)「フクシマ ヤマダ タロウ」

**クレジットカード** <http://pbv.or.jp/donate/fukushima.html> をご覧ください

### 福島子どもプロジェクト 2015 年春休み・活動の記録

【発行】国際交流 NGO ピースボート / 一般社団法人ピースボート災害ボランティアセンター

【編集】川崎哲、古賀早織、合田茂広

【写真】片岡和志

【リンク】ピースボート福島子どもプロジェクト [http://www.peaceboat.org/projects/fukushima\\_youth/](http://www.peaceboat.org/projects/fukushima_youth/)  
ふくしま支援ブログ [http://pbv.or.jp/blog\\_fukushima/](http://pbv.or.jp/blog_fukushima/)

この刊行物に関するお問い合わせはピースボート事務局までお願いします。

〒169-0075 東京都新宿区高田馬場 3-13-1-B1

TEL: 03-3363-7561 FAX: 03-3363-7562 E-MAIL: [info@peaceboat.gr.jp](mailto:info@peaceboat.gr.jp)

